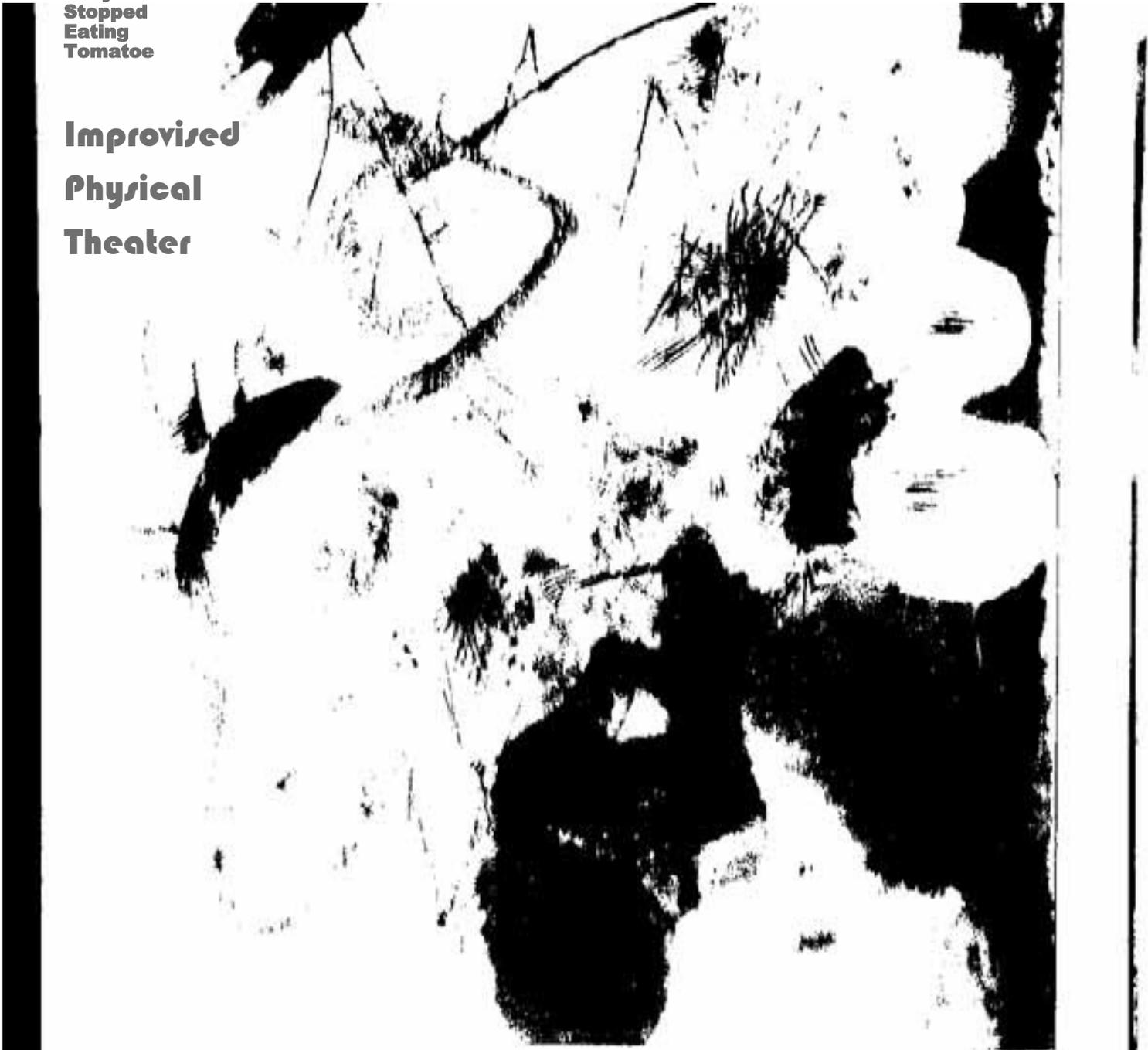


DA・M 2003春演劇公演

トマトをたべるのをやめたとき Version3

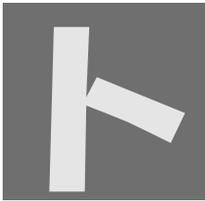
When
They
Stopped
Eating
Tomatoes

Improvised
Physical
Theater



March 7fri→9sun, 2003 Start at 19:30 (17:30 on Sunday)
Azabu die prätze

DAM
Theater



マトをたべる のをやめたとき version3

本日の公演は、昨年ドイツ／ハンブルグにて開催されました
ラオコオン・サマーフェスティバル (Kampnagel) 招待作品の
東京公演です。

この数年DA・Mが取り組んで来ました演劇における集団即興
という新たな劇的地平も、遅遅としてではありますが可能性
を広げ、<錯乱する身体>という危うさの中に常に身を置く
ことで、混沌とした現代に生きる個々の生のもろくあやふ
な均衡状態を見定めつつもあります。
また一昨年「9.11」によりもたらされた“新たな戦争”とい
う世界情勢と演劇がどのように向き合い、応答していけるの
か、そう問いかけながら改編を重ねて来しました。

まだ 何も始まっていない
だがこの瞬間も すでに何かが進んでいる
.....沈黙する世界との応答

舞台は、それぞれ異なるコードで行われます3つの即興行為
(場面X. Y. Z) といくつかのイメージ行為によって構成
されています。舞台上で連綿と生まれ創りだされていく(消
されていく)、多様な行為の一つ一つの響き(合い)が、皆
様それぞれの生の一片に触れるものになればと願います。

どうぞ最後までごゆくりとご観覧の上、公演後ご意見ご感想
をお聞かせ下さいませようお願い申し上げます。

マトをたべるのをやめたとき

Version1 初演	2001.9.7-9
Version2	2001.9.25 in Asia meets Asia2001
Version3	2002.9.5-7 in LaokoonSummer Fes.



挿入テキスト

.....怪物がいる 海の底
ぞっとするような機械類が姿を現した
彼女をじっと見ている
もう一度見る
同じである

S.I.ヴァイトキエヴィッチ「幻覚剤ペイヨーテの効
果に関する報告」より

私はそれを見たのよ
私はそれを見たわ

私はそれを見たのよ
私はニュース映画を見たの
私はそれを見たのよ
私はそれを見たわ
私はニュース映画を見たの、二日目に
犬が何匹か撮影されたわ 永久に
私はそれを見たのよ
最初の日の
二日目の
三日目の
ヒロシマの

M.デュラス 『ヒロシマ私の恋人』より

右、右、右、もっと右、違う、違う、左、左、左
左だって言うてんでしょうが
「Come on This Way」
「アッ、アッ、アッ」
2001. 9. 11のニュース映像より

.....12時20分前、傍にpolosatiye(稿模様の)一怪物がいる。海の底。鮫。気泡。磯巾着。左側で海の怪物たちの戦い。誰かの口。それ以前の、10時30分頃、ぞっとするような機械類が姿を現わした。機械的に動く抽象的な被造物と占い杖と気筒とバツタ、そしてその戦い。(奇怪な現象)。体を後にねじった蟻食いに棘のある蟻食い。剛毛で覆われた齧歯動物。ポーレン大佐が帽子をかぶり、黄色い光に照し出されて現われた。ザヴァッカが誰かに媚びるようにウィンクをした。12時10分、脈拍72。時間が、膨張してくる。虹色に輝く宝石。インドの生きた彫刻(まずバルゼブプの黄金の細密画から始まった。型にはまった馬鹿面と動物との(混り合った)悪魔的な変態が最後に巨大な蛇の群れになる。そして、蛇の群れは合体して怪物になる。そばで眠っているニーナの顔が仮面になり、彼女を凝つと見ている。彼女の眼が無気味に動く(実際には動かずに眠り続けている)。もう一度見る同じである.....怪物のような動く仮面。

麻葉が彫刻と建築のなかに様式を創造する。紋章入りの肘。腕が蛇(黄色と青色)に変態し、蟹の目をした変色怪物に征服される。茶色を背景とした緑色の蛇の世界。複数の世界。グリューネヴェルトの祭壇とルカス・クラナハのような人物。こうした怪物が腐乱した死体と混り合う。眼のなかで腐った黒人が一条の閃光のように途中で消え失せた。しばしば、そうしたものすべてが斜めになったままである。熱帯における地球の断面図。機械-タービン-世界の中心と毛皮のプレーキ。.....

S.I.ヴァイトキエヴィッチ「幻覚剤ペイヨーテの効
果に関する報告」より

● 出演 サキ 八重樫聖 今井あゆみ 中島彰宏	● 構成・演出 ● 舞台美術 ● 協力感謝	大橋宏 吉川聡一・山崎久美子 田嶋繭子・河上賢一・佐々木紀 亀山喬史・鈴木亮平・亀山峻伍・山岡潤平
● 音楽	竹田賢一(エレクトリック大正琴)	



出演者(A)プロフィール

(順不動)

水まわりだけはキレイじゃないと落ち着かないというA。中学の時、`即決消去法`で芝居の方向を選んだそう。即決消去法`はAの得意技らしくて、アパート借りるときもお金の使い道を考えるときも、受験校選ぶときも全部これで通してきたとのコト。もう少し考えてもいいんじゃないかと思う。最近の1番面白かったことは、1人でディズニーランドに遊びに行ったコトだっているんな人に話した。今度行くときは是非友達と行くからね。

Aは体が硬い事を実は気にしているようだ。ダンサーのようなしなやかな体に密かに憧れを抱いている。学生の頃、演劇のえの字も知らないままに受講したバレエの講義、黒タイツを履いて悪戦苦闘した日々。Aはまず開脚が出来なかった。劇団に顔を出すようになったのもちょうどその頃。本人はただのトレーニングのつもりで来ていたのかも知れない。故に劇団の事はあまり分かっていなかったようだ。そんなAが何かの勢いによって劇団に在籍している。ここ3年の充実した時間、Aも少しは体の力みが抜けてきたようだ。しかし、あまりゆるめすぎないように。顎も前に出ていたら必ず注意すること。

Aは、いらち、つまりせつかちである。尋常ではない経歴として中学の体育5段階評価で1を2度取っているのだが、「早く終わらせたい競技、短距離走」はいらちのおかげで減法速かった。当時岩手県中学女子100メートル走記録を更新したことがある。今はいらちのおかげで自転車が速い。Aの自宅の東中野から横浜まで1時間45分、川口45分、麻布は30分という。演劇は80年から始めた。いらちが随分長いこと走っている。何度もつまづきながら……Aにいらちから開放される時は来るのだろうか……

Aは夜毎、会話する。生まれですか？盛岡で一す、ずっとじゃないんですよ、4才で出て来ましたから横浜に、それから相模原、そうそう基地のある、中野、えっ、うっそー、中野なんですか、お近いじゃないですか、昼っていうか、演劇やってるんですよ、舞台の方なんですけどね、そんなん、女優っていうか、アングラですよ、もぐってもぐって、訳のわからんやつ、スママセンネッ、何年？聞かないで下さいよ、シー、ハチチからだから18年！なんちゃって、女優っていうか、女に年を聞くのって！MIは、実はかれこれ、30年演劇をやっているラシイ。高校演劇では部長だったラシイ。あこがれの部担教師に、物事10年やってみないと何もわからないと思うよ、の一言を忠実に守ったら、30年やっていたラシイ。

Aの片方の胸には大きな穴が空いている。といて、別にAは結核を患ったこともないし、その穴はレントゲン写真に影となって写ったりもしない。しかし、なにもかもを吸収しようとするブラックホールのようにAを貪欲へと駆り立ててきた。いったい何をもってその穴を埋めることができるのか。知識、愛、音楽、憎しみ、美食悪食鯨飲も虚しく、片肺跛行を続けるリディムは殷陰滅絶、韜晦かつ豪快。破局をあやうくかわす飛燕の悲鳴は、性格の悪人なおもて向上はさせないまでも厚情を感じさせる。かくして今日もまた、Aの胸腔を吹き抜ける風を聞かせられるのだ。



▼1986年設立。同年利賀国際演劇祭参加、及び米国人共同公演を企画上演。▼1988年、自ら運営する<プロト・シアター>を拠点に持続的な創作活動を開始。「戯曲の再現」という既存の演劇観から離れ、年間を通す身体作業をベースに、ジャンルや劇団の枠を越えたアーティストたちとの共同的な実験公演を精力的に展開。一貫して戯曲の物語性やテーマ性を排し、断片的な行為・言葉・イメージの構成により、意味以前の、揺れ動く生そのものの形を探り出そうとする。▼1995年より他空間での公演活動を再開。「それは私の夢じゃない」「aruku/アルク/」「Il Vulcano」等を発表し、集団的な即興行為の発掘・組織化へと進みながら、始源性と今日性の融合する作品世界を開拓。静けさと激しさが瞬時に交錯するカオス的時間を生み出す舞台は、ジャンルや立場、国籍の枠を越えて多方面からの支持を得る。▼同時に1988年以来プロト・シアターの場にてワークショップ やソロ公演等の企画を手がけながら、多領域との交流と未知の可能性に開かれた「創造的な環境作り」を持続している▼1997年アヴィニオン演劇祭、2000年香港共同公演、2001年ラオコオン演劇祭参加とともに、アジア現代演劇の国際交流を目指すAsia meets Asiaに97,98,2001年と参加。言語の壁を越えて活動の幅を広げている。



DA・M研修生募集

ヒ

トがヒの前に丸腰で立つ、という舞台の根本に潜む力強さ、豊かさは、演劇の未知の可能性を秘めて誰にでも開かれています。研修活動では、本格的な身体トレーニングを積み重ねながら、舞台に立つことの基礎的な身体力や技術、考え方を、最も始源的な地平から掘り起こし身につけていきます。半年間を一期として、参加者の共同作業による自主公演を目指していきます。指導はDA・Mの演出大橋宏と俳優達が一人一人に丁寧に行います。

◆活動内容

1. 身体トレーニング ～基礎体力と身体意識・感覚・技術の養成
2. リラクゼーション ～より深く開かれた解放的身体の養成
3. 発声ワークショップ ～深い声と豊かな声の養成
4. 表現ワークショップ ～モノ・言葉・他者・空間との関わりと構成
5. 即興ワークショップ ～動きと形の創造 他者との交感
6. 公演リハーサル ～舞台創作の実践
7. 学習会&スタッフワーク～様々な演劇論とスタッフ技術の学習

◆活動期間：半年を1期として最終月に公演します。

何期でも継続可。（3期終了後劇団への入団可）

◆活動開始：（第4回生）2003年4月～9月公演

- ◆活動日：週3回（原則毎週月・火・水）夜の部/p.m.7:00～10:00
※公演直前は連日となります。

◆活動場所：プロト・シアター（高田馬場）

◆入会金：¥15000（公演準備金として）

◆研修費：月¥20000 ※2期以降、継続者は減額されていきます。

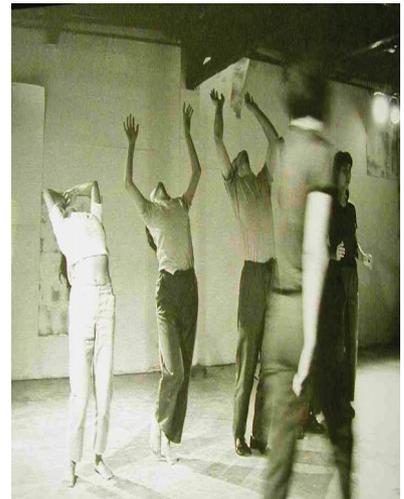
◆募集人数：昼・夜の部各男女10人（経験・年齢不問）

- ◆応募方法：履歴書を郵送して下さい。追って面接日をご連絡いたします。
※募集は随時。定員になりしだい締め切らせていただきます。

問合せ・応募先 tel&fax 03-3368-0490

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-38-3 DA・M

Http://village.infoweb.ne.jp/~dam/



Asia meets Asia 2003のお知らせ

お

待たせ！★アジア現代演劇の相互交流活動を継続し好評を呼んできました＜Asia meets Asia＞がいよいよ今年に開催されます。1997年第1回開催を立ち上げて以来、第2回(1998年)・3回(2001年)と参加してきましたDA・Mは、2000年に共同公演(『Unbearable Dreams』)を実現しました香港Clashと組み、より広範なアジア演劇人達との共同創作に挑みます・・・おかげさまで第4回を迎えます＜Asia meets Asia＞は、これまでに韓国、香港、台湾、タイ、インドネシア、マレーシア、インド7ヶ国のアジア現代演劇との交流を深めてまいりましたが、今回は、昨今の国際情勢を踏まえ、南西アジア(イスラム文化圏)方面からの現代演劇グループを招聘し3作品を上演します。本邦初上陸！是非ご期待下さい。

- 期 日(予定) 2003年10月29日(水)～2003年11月3日(月・祝日)
- 会 場 本会場：麻布die pritze /併用会場：プロト・シアター（高田馬場）
- 参加団体
 - ・ Centre for Asian Theatre (バングラデシュ)
 - ・ The Bazy Theatre Group (イラン)
 - ・ “THE KEY”上演グループ (イラク& アラブ首長国連邦)
 - ・ DA・M (東京) +Clash (香港) によるアジア共同創作公演
 - ・ 日本参加劇団は未定

- 問い合わせ Asia meets Asia実行委員会 03-3368-0490 (プロト・シアター内)
ama1997@nifty.com http://homepage3.nifty.com/aa/



プロト・シアター

03-3368-0490

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-38-3

proto@pop16.odn.ne.jp

http://www2.odn.ne.jp/proto

- JR、西武新宿線、地下鉄東西線「高田馬場」駅下車。
早稲田通りを小滝橋方向へ徒歩12分。ミニストップ先の角を右折。すぐの二股を左に入り30m先の右側。
- 西武新宿線「下落合」駅。徒歩7分。
- 東西線「落合」駅。(高田馬場より出口)徒歩10分。